

2026年5月15日

各位

会社名 スミダコーポレーション株式会社  
代表者名 代表執行役 CEO 堀 寛二  
証券コード 6817 東証プライム市場  
問合せ先 広報・IR チーム Tel. 03-6758-2470

## 内閣府「研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム（BRIDGE）」の 量子磁気センシングプロジェクトへの参画決定のお知らせ

この度、当社は内閣府「研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム（BRIDGE）」の施策である「NMRの高感度化に向けたダイヤモンド量子磁気センシングの広帯域化及び製造プロセスの確立」（研究推進法人：国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（以下、QST））に、国立大学法人京都大学（以下、京都大学）とともに新たに参画することとなりましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 本プロジェクト参画の背景および概要

研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム（BRIDGE）は、統合イノベーション戦略等の科学技術・イノベーション政策の方針に基づき、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が各省庁の研究開発等の施策のイノベーション化（SIP や各省庁の研究開発等の施策で開発された革新技術等を社会課題解決や新事業創出に橋渡しするための取組をいう）につなげるための「重点課題」を設定し、研究開発だけでなく社会課題解決等に向けた取組を推進するプログラムです。

当社は京都大学との共同研究を通じて、量子磁気センシング技術の実用化に向けた研究開発を実施してまいりました。2023 年には科学技術振興機構(JST)における研究成果最適展開支援プログラム A-STEP(本格型)に共同研究テーマが採択され、量子磁気センシングシステムに関する多数の技術を蓄積し、実用化に向けた研究開発を推進してまいりました。

これらの活動成果が認められ、BRIDGE では QST ならびに京都大学と連携し、新たな共同研究開発体制を確立しました。量子磁気センシングシステムの実用化に向け、研究開発を一層推進し、早期の社会実装の実現に取り組んでまいります。

施策名：

NMR\*の高感度化に向けたダイヤモンド量子磁気センシングの広帯域化及び製造プロセスの確立

研究開発責任者：

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 大島 武

## 2. 研究開発内容について

本プロジェクトでは、「NMR の高感度化に向けたダイヤモンド量子磁気センシングの広帯域化及び製造プロセスの確立」を施策として目指しています。QSTと京都大学が保有するダイヤモンド NV 中心の合成技術、及び京都大学と当社が開発した高感度量子磁気センシング技術を活用することで、微弱な NMR 信号を室温下で高感度、かつ広帯域に取得することを目指すとともに、将来的な量産および産業利用を見据えた製造プロセスの確立に取り組みます。本技術は、NMR 分析に要する時間を 1/10 以下に短縮し、化学分野における分析効率や生産性を飛躍的に向上させる革新的技術となることが期待されます。

## 3. 当社参画の意義および中期的戦略との関係

当社は中期経営計画において、既存事業で培ってきたコイル部品・モジュール分野の技術基盤を最大限に活用しながら、先端分野を中心としたニッチ市場におけるトップポジションの確立を重要な戦略として掲げております。

本プロジェクトへの参画を通じて、当社の強みである高度なコイル技術を活用した高性能な量子磁気センシングシステムの開発に取り組み、サブシステムレベルの高付加価値製品の製品化を目指します。本製品を組み込んだ NMR 装置は、化学、製薬、食品、農業など幅広い分野での活用が期待されており、今後の用途拡大による市場成長が見込まれます。

さらに、本技術は NMR 用途にとどまらず、高度な物理計測への応用可能性も有しており、将来的な事業領域の拡張につながるものと考えており、本プロジェクトへの参画を契機として、量子磁気センシングという将来性の高い技術分野における新たな事業機会の創出に向けた検討を継続的に進めてまいります。今回の取り組みは、中期経営計画で掲げる成長戦略を着実に実行していく重要な施策の一つとして位置づけております。

## 4. 今後の見通し

本事業に係る関連費用および委託研究費等の会計処理については、今後、会計基準等を踏まえて検討してまいります。なお、本件が当社の当期業績に与える影響は軽微であると見込んでおります。今後、開示すべき事項が生じた場合には、適切にお知らせしてまいります。

\* NMR: Nuclear Magnetic Resonance 核磁気共鳴

[当社ウェブサイト・プレスリリース](#)

以上

---